

### 3. 北海道周辺に分布するニシンの遺伝情報を利用した集団構造解析技術開発 (経常研究)

担当者 調査研究部 藤岡 崇

#### (1) 目的

産卵期に産卵場で採集された産卵親魚のmtDNA分析を行って遺伝的特徴を把握し、その情報に形態的、生態的特性値等を加えた系群判別の基礎となるデータベースを構築する。

#### (2) 経過の概要

渡島桧山管内の漁獲状況を把握するため漁獲統計データを整理した。1985～2011年は漁業生産高報告、2012年は水試集計速報値を用いた。系群としての由来を確実にするため、産卵群を標本として収集することとなり、松前さくら漁協、福島吉岡漁協および上磯郡漁協に対し産卵期と考えられる2～3月に標本収集を依頼した。

#### (3) 得られた結果

渡島管内におけるニシンの漁獲量は(図1)、1985年～1991年には18～110トンの漁獲があったが、1992年に3トンに減少した後、1993年には386トンに増加した。しかしその後減少し、1994年以降は1～16トンで推移した。2012年の漁獲量は前年(4.4トン)を上回り10トン(暫定値)であった。桧山管内の漁獲量は、1985～1997年までは漁獲の記録がみられない。1998年に10Kg漁獲され、1999年は漁獲がなかったものの2000年以降は少量ではあるが漁獲されている。2006年以降やや増加し、2009年には165kg漁獲された。その後減少し、2012年は21Kg漁獲された。

産卵群の標本を依頼していたが、漁獲が少なく標本の入手ができなかった。

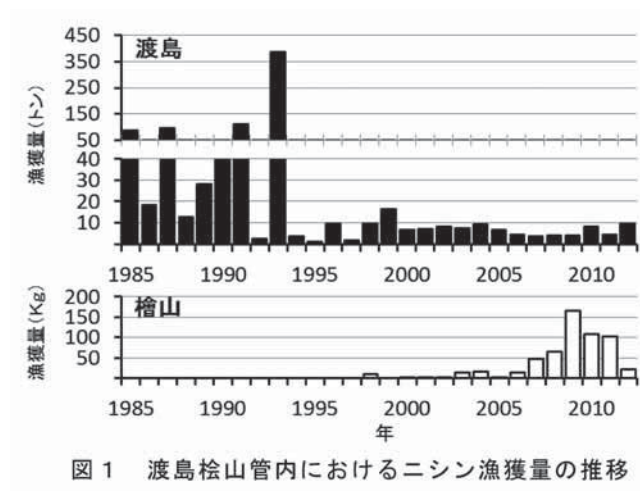


図1 渡島桧山管内におけるニシン漁獲量の推移